

学力向上推進員	校長・教頭・教務主任： 進員： 下学年推進員：	学力向上推進員・研修主任： 特別支援コーディネーター：	上学年推
---------	-------------------------------	--------------------------------	------

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
<p>よさ</p> <p>昨年度の漢字テスト正答率は87%計算テスト正答率は85%で、『話す・聞く・書く・読む』の到達目標B評価が80%以上の目標もほぼ達成され、基礎的・基本的な知識・技能は身につけてきていると思われる。</p>	<p>①漢字や計算などの基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる子ども。</p> <p>②校内で作成した指標『基礎基本の定着をめざして』に示した「話す」「聞く」「読む」「書く」の到達目標を達成できる子ども。</p>	<p>①漢字や計算の月末テストの正当率80%以上にする。</p> <p>②「話す」「聞く」「読む」「書く」の到達目標B評価の児童を80%以上にする。</p>			
<p>課題</p> <p>話し合い活動の基礎基本は身につけてきているが個人差が大きく、言いたいことを十分に伝えられない児童がいる。理由や根拠を明確にして自分の考えを書いたり話したりすることが苦手な児童が多い。</p>	<p>具体的方策(教員の取組)</p> <p>①家庭学習の手引きを活用し、自主学習を積極的に進めていく。</p> <p>②朝の活動に漢字・計算・読解の時間を設定し継続的に学習をする。</p> <p>③各教科等における問題解決的な学習を行うとともに、「話す」「聞く」「読む」「書く」活動の充実を図る。</p>	<p>取組指標</p> <p>①自主学習ノートを用いた家庭学習の仕方について根気よく継続的に指導をする。</p> <p>②朝の活動の15分間をきちんと取り、漢字計算の月末テストの正答率80%以上の定着を目指す。</p> <p>③『基礎基本の定着をめざして』にある指標を学期末に確認する。</p>			

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
<p>よさ</p> <p>方法や手順の見える化により、見通しを持ち、学習に積極的に取り組む児童が多い。体験活動に意欲的に取り組むことができ、探求的な学習活動に取り組める。</p>	<p>①ペアやグループで目的に応じて根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを進んで話すことができる子ども。</p> <p>②話をよく聞き、話し手の考えを自分の考えと比較し、質問したり感想を述べたりすることができる子ども。</p> <p>③自分の思いや考えを様々な表現方法で伝えることができる子ども。</p>	<p>①児童アンケート、児童の割合を80%以上にする。</p> <p>②児童アンケート、児童の割合を80%以上にする。</p> <p>③児童アンケート、児童の割合を80%以上にする。</p>			
<p>課題</p> <p>自分の課題や目的に応じて聞き取ったりまとめたりする力、必要な情報を選択し、筋道を立てて説明する力に課題がある。自分の考えを表現することが苦手で、相手に考えが伝わるように様々な方法を活用する力が十分身につけていない児童が多い。</p>	<p>具体的方策(教員の取組)</p> <p>①話し合いの手引きを活用して、ペアやグループでの話し合いを積極的に取り入れ、友達の意見を聞き、自分の考えを深めさせる。</p> <p>②相手や目的に応じて「書く」ことができるように機会を捉えて「書く」指導をする。</p> <p>③ホワイトボードを活用し、分かりやすく自分の考えを書いて伝える方法を指導する。</p>	<p>取組指標</p> <p>①教員アンケート、教員の割合を85%以上にする。</p> <p>②教員アンケート、教員の割合を85%以上にする。</p> <p>③教員アンケート、教員の割合を85%以上にする。</p>			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
<p>よさ</p> <p>地域の人・もの・ことを対象とした活動や発表などでは、生き生きとした表情で積極的に取り組むことができる。自主学習ノートを用いて自分の興味のある課題について意欲的に学習する児童が増えてきた。</p>	<p>①家庭学習や苦手な課題についても根気強く取り組むことができる子ども。</p> <p>②読書を楽しむ習慣を身につけ、学校だけでなく家庭でも本や文章を読むことができる子ども。</p>	<p>①宿題の提出は95%以上を目指すとともに、宿題以外の自主学習をする児童を70%以上とする。</p> <p>②読書手帳100冊読破を目指す。</p>			
<p>課題</p> <p>身近な生活の中から課題を見つけ、全体で共有し問題を解決していく力が育っていない。読書タイムの実施により学校では読書をする児童が増えてきたが、家庭では読書時間が少ない。</p>	<p>具体的方策(教員の取組)</p> <p>①家庭学習強化週間を年間5回設定し、目標を持たせて取り組ませる。</p> <p>②「読書手帳」に、題名などを記録させ意欲を持たせる。町立図書館と連携を図り、読書環境を充実していく。</p>	<p>取組指標</p> <p>①家庭学習チェック表を記録させ、個人にあった目標を設定させる。自主学習ノートは学期末に自己評価や他者評価を行い意欲付けを行う。</p> <p>②読書タイム10分にプラスして家庭でも読書や新聞を読むことができる手だてをする。</p>			

平成29年度 学力向上ロードマップ

